

原 著

若年性皮膚筋炎に併発した 異所性石灰化に対する外科的治療例の検討

大石季美江¹⁾, 前川二郎¹⁾, 三上太郎¹⁾, 山本康¹⁾,
安村和則¹⁾, 細野味里¹⁾, 友枝裕人¹⁾, 矢吹雄一郎¹⁾,
宮前多佳子²⁾, 横田俊平²⁾

¹⁾ 横浜市立大学附属病院 形成外科,

²⁾ 横浜市立大学 発生成育小児医療学

要 旨: 若年性皮膚筋炎は、特徴的な皮疹と慢性の筋の炎症を呈する原因不明の全身性リウマチ性疾患である。若年性皮膚筋炎には異所性石灰化を合併することがあり、疼痛や炎症、石灰の露出、関節可動域制限などが問題となる。石灰化に対しては様々な内科的治療が試されているが未だ確実な治療法はない。外科的治療については、国内外での症例報告がいくつか散見されるが、手術適応や結果について詳しく言及したものは少ない。そこでわれわれは当科で手術を行った7例について、石灰化出現部位および手術部位、手術時の症状、石灰化の局在、手術方法と再発の有無を検討した。当科での手術適応は、1) 局所あるいは全身性の炎症 2) 局所の疼痛 3) 皮膚への露出 4) 関節可動域制限の症状を有する症例としている。しかし、これらの症状がなくとも、5) 石灰化病変の増大そのものが整容的に問題となるものにおいては、患者本人および家族の理解を得た上で手術を施行している。外科的に全摘出できたものに比べ、減量術に止まった症例では術後の再発率が有意に高く、手術を施行する部位についてはできる限り病変の全摘出を行うことが望ましい。しかし全摘出が困難な症例も多く、その場合には安易に手術を行わず、適応について特に慎重に検討する必要がある。

Key words: 若年性皮膚筋炎 (juvenile dermatomyositis), 異所性石灰化 (dystrophic calcification), 手術適応 (indication for surgical treatment)